



あすもりサポーター通信

「富良野自然塾で植樹と自然を体験しよう」報告(1)

環境教育プログラム

今年で6回目になる「富良野自然塾で植樹と自然を体験しよう」は、2012年9月15日(土)に開催されました。暑い夏の名残で例年よりとても暑く感じましたが、天候に恵まれ、参加者のみなさんは心地よい汗と充実した時間を過ごすことができました。

最初に、倉本 聡(くらもと そう)先生に想いを語っていただきました。参加されたみなさんからは、特に「水や酸素について印象に残った」との声が寄せられています。富良野自然塾ではゴルフ場の跡地に植樹を進めるだけでなく、「昔の森」に還すことと同時に、フィールドを利用した環境教育にも力を入れています。そこで、植樹をする前に、環境教育プログラムを参加者全員で体験しました。



一つ目は「裸足の道」。ペアを組んで、一人が案内役を務めます。もう一人は目隠しをして素足になり、草の上、木のチップ、石ころなど、いろいろな地面を歩きます。耳をすませば鳥の鳴き声、葉と葉のこすれる音、さわやかに吹き渡る風など、普段あまり使っていない五感が働きます。石ころの上では歩みが遅くなったり、つないでいる手に力が入ったり、日々の暮らしでは得られない貴重な体験ができました。

「石の地球」では、直径1メートルの石でできた地球や石版を使って、現在の地球の現状を説明していただきました。空気の厚さや森林の面積、砂漠化している現状を目と耳で体験します。参加者のみなさんはしっかり聞き入っていました。

「地球の道」ゾーンでは、地球の始まりから46億年を、460mの道になぞらえています。氷河期や恐竜が生きていた時代など、おもしろく解説していただきました。地球が『奇跡の星』と呼ばれる理由、生物の誕生と人類の誕生がいかに奇跡であるか、化石燃料がどのくらいの期間をかけて出来上がっているかを聞き、いかに希少なものであるかを実感しました。

あすもりサポーター 井上 久子



秋の育樹祭

Fの森ワークショップ 同時開催

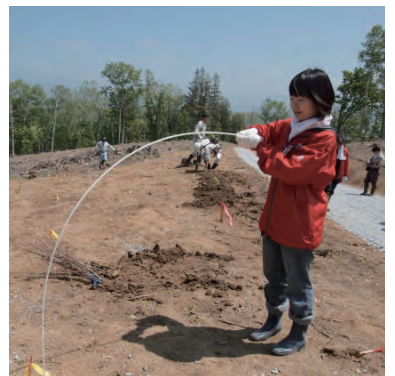
サポーターさん限定企画

雪の枝折れ対策と『Fの森』(来年の植樹地)探索

当別・神居尻の「コープの森」も5年目をむかえ、今年はケヤマハンノキ・ヤマモミジ・ハルニレ・ミズナラ・シラカンバを6月9日に植樹しました。春の根踏みにもご参加くださいましたサポーターさんありがとうございました。秋の育樹では、はじめてグラスファイバーを使った補ていを行います。是非ご参加下さい。

日時：10月21日(日) 8:30~17:00 (予定)

集合場所：札幌駅北口 鐘の広場 8時30分集合



グラスファイバーを使った補てい作業

●参加費：無料 ●募集人数：30名(ご応募が多い場合は抽選となります。)

●持ち物：お弁当・飲み物・軍手・タオル・目薬(お持ちの方)・カップ(雨天の場合)・長袖の上着・プラスチックハンマー(お持ちの方)

●申し込み：ハガキかFAX、メールでお願いします。 ●締め切り：10月12日(金)まで(12日(金)当選通知発送)

●応募方法：【ハガキ】〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10-1 コープ未来の森づくり基金事務局「育樹」係 井上まで
【FAX】011-671-5743 【Eメール】csap.chocotto@todock.jp

※同封のチラシでもお申込みできます。

※記載された個人情報は当組合員活動にかかわる情報の提供のためにだけ使用します。

◆お問い合わせ先◆ 担当 井上・平工まで

コープ未来の森づくり基金事務局：Tel 011-671-5651(土日祝日を除くAM10:00~PM3:00)



「富良野自然塾で植樹と自然を体験しよう」報告(2)

植樹プログラム



富良野自然塾ではゴルフ場の跡地に植樹を進めていて、昔の森に還すことをめざしています。環境教育プログラムを体験した後、ゴルフ場のコースだった「B-12ベスの森」という場所に、カミネッコン方式で植樹をしました。時間があれば、実生を移植したり、若苗を作るところからはじめたいのですが、今回は植樹に適した大きさまで育った苗木を用意していただき、3種類の苗木を寄せ植えしました。3本のうちどれが残るか？はわかりませんが、シラカンバが早く生長しそうです。

第1回～第4回まで植樹をしていた「D-2ダイアナの森」では、植樹をはじめた頃は、リスが探し忘れたオニクルミの実生の木が目印になっていました。ところが、現在では植えた場所がわからないほど、シラカンバが背丈以上に生長しています。

最後に、案内して下さったNPO法人C・C・C富良野自然塾の齋藤典世さんが話していた「ハチドリのひとしずく」というお話し。・・・を思い起こしながら、初心に戻って、「やっぱり植樹は初めの一步、これからも継続していくことがたいせつ」と思った1日でした。

「富良野自然塾」についてくわしく知りたい方は、公式ホームページにぜひアクセスしてみてください。植樹をする理由やこれまでの歩み、植樹した森の5年後の報告写真、環境教育プログラムなどが掲載されています。

あすもりサポーター 井上 久子

「富良野自然塾」ホームページ

<http://furano-shizenjuku.com/>

2009年以降に植えられた若木達の生長のようすは「ギャラリー」ページでご覧になれます。

<http://furano-shizenjuku.com/sub10.php>

あすもり基金 助成団体紹介 (2009/2011年度小額助成)

NPO法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭

室蘭市のイタンキ浜に隣接する潮見公園をフィールドに、かつて広がっていた湿地帯と豊かな植生の復活をめざして活動しています。団体の設立は2002年。地元行政に湿原再生プランを提案し続けながら、実験池で湿地性の動植物を保全するなどの活動を行ってきました。

活動はビオトープの造成、自然再生の促進、子どもたちの自然体験のサポートを柱に進めています。ビオトープは昨年4月に2000㎡の水域造成が完成し、近郊のヘイケボタルの導入・定着にも成功。トンボ22種をはじめ、多様な水生昆虫や魚が息づく空間に生まれ変わってきています。

海岸林も再生プランの重要な要素のひとつで、設立当初から海岸に自生する樹木の種子から苗木を育て、子どもたちと共に植育樹を進めています。現在では3～4mの木立に育ち、カワセミなど水辺の鳥たちの出現に役立っています。



あすもり事務局から

コープ未来の森づくり基金では、北海道の森づくり団体を応援するために助成制度を設けています。森づくり、森遣いの活動をしている団体さんはたくさんありますが、手弁当で活動をしていたり、予算がないためにせっかくの活動が広がらなかつたりと、苦労をしている団体もたくさんあります。



2009年から始まった助成制度も今年で4年目。様々なジャンルの審査委員さんが資料を読み込み、応援したい団体を決定します。今年も申込期間が終了。いよいよ審査が始まります。発表は12月下旬。今年はどうな団体が助成をうけるのでしょうか？

あすもりのドングリマークを真ん中に入れたQRコードが出来ました。

携帯電話などのバーコードリーダーで撮影すると、あすもりのFacebookページを開くことができます。

<https://www.facebook.com/coop.asumori>



森の本

毎号1冊、森づくりに関するおすすめの本を紹介します。

『ハチドリのひとしずく いま、私にできること』

監修/辻 信一、発行元/光文社



南米アンデス地方に伝わる昔話です。監修者の辻さんは、南米に住む知人からこの昔話を聞いて感銘を受け、広く知らせたいと出版したそう。

本の内容でなにを感じるか、行動するかがたいせつです。心にとめておいて、普段は忘れていても、何かの場面で思い出してみたいです。

基金サポーター 井上久子